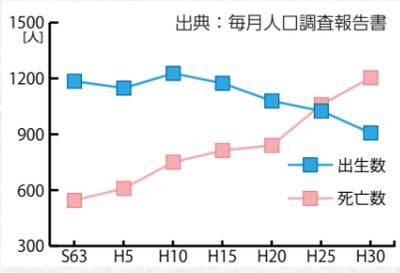


# 平成

を振り返る

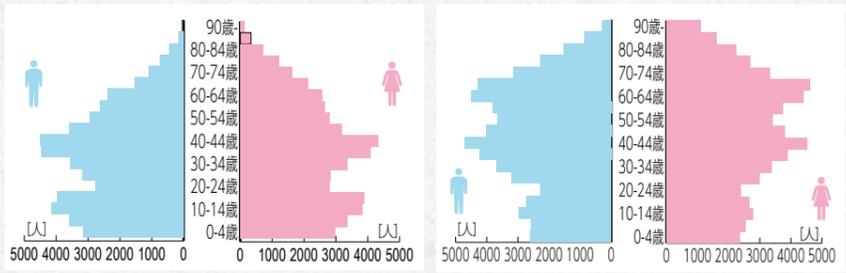
## データで振り返る平成

本市の出生数と死亡数の推移

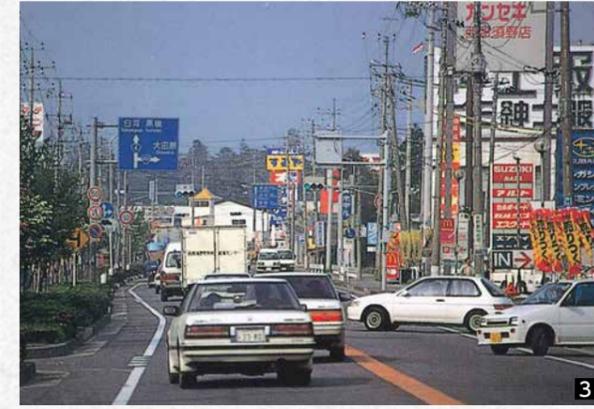


平成初期の出生数は死亡数の倍ほどだったが、死亡数は増加、出生数は減少を続け、平成25年には逆転した。

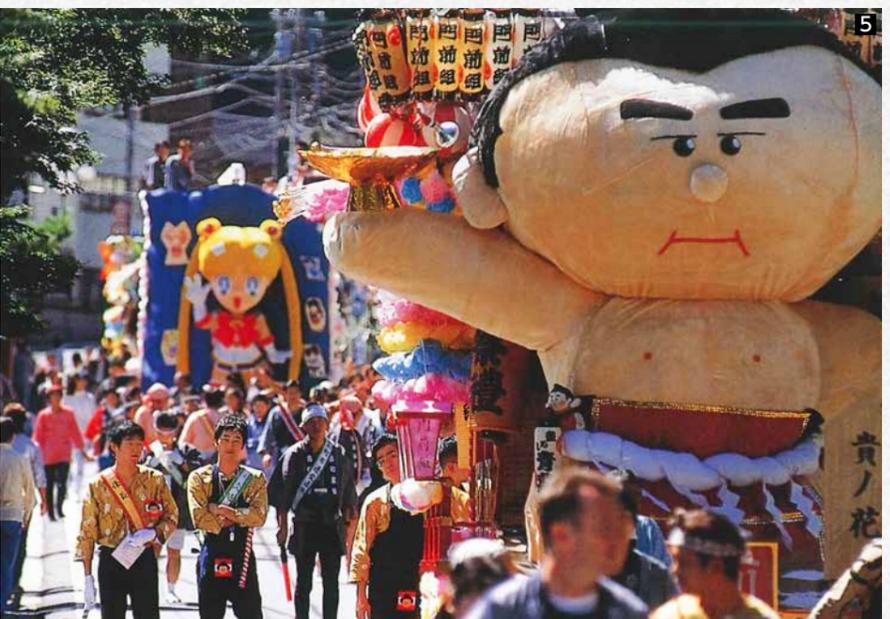
本市の人口ピラミッドの変化(左:平成2年、右:平成27年 出典:国勢調査)



年少人口(0-14歳)が減少し、老年人口(65歳以上)が増加したことが一目でわかる。また、平成2年に40-44歳だった“団塊の世代”が、平成27年には65-70歳になり、ピラミッドの中ほどから上部へと移った。



12 愛子さま初の訪問。広場には多くの市民の姿が(H14) 3 平成初期の国道4号線(西那須野)の風景。走る車や沿道の店は様変わりした 4 嶋内小学校入学式。平成には学校の統廃合が相次いだ 5 塩原温泉まつりの山車からは流行がうかがえる 6 シクラメン農家を訪問。当時、陛下は60歳(H6)



7 塩原でのお盆の朝市は多くの観光客でにぎわった 8 那須水害で寺子小の避難所を訪れた当時の小淵総理大臣(H10) 9 インターネット普及に合わせて、市役所には体験コーナーが 10 新成人の振袖からも流行が反映される。後ろに映り込んでいる携帯電話や使い捨てカメラも懐かしい 11 国会の移転候補地として名前が挙がった那須野が原。平成11年には“那須維新”と銘打ち国会等移転の総決起大会が催された 12 今はなき穴沢の獅子舞。伝統芸能の休止や中止も相次いだ 13 平成初期のハンターマウンテン。スキーウエアがなんとモノウイ 14 多くの人でにぎわう花市 15 新幹線“なすの”に乗れば、座って通勤をエンジョイできる

昭和から平成、そして令和へ  
「新しい元号は平成であります」。当時の小淵恵三官房長官の記者会見が印象的だった平成の始まり。1989年1月7日に昭和天皇が崩御され、慌ただしさとともにその時代は幕を開けた。その年末には日経平均株価が過去最高を記録。東京の山手線内の土地を全て売れば、アメリカ全土が買えると言われるほど地価も上昇し、日本全体が好景気の高揚感に包まれていた。しかし、その2年後にはバブルが崩壊し、日本は失われた20年と呼ばれる時代へと突入する。その波は、ここ那須塩原市にも暗い影を落とし、地方の経済を支えていた中小企業や市民の生活を支えていた商店街などは徐々に衰退。先が見えない不安感が影響してからか、出生率も低下。成人式を迎える新成人の数もみるみる減少していった。しかし、そんな逆境をはねのけ、この地域を何とか盛り上げようと、さまざまな試みがなされた時代「平成」。新しい祭りを催したり、地域の名物を考案したり、地域の外から人を呼び込むと図ったり。自分たちの故郷を次の時代にも引き継ごうと、奮闘した人々の姿があった。新しい時代「令和」の始まりにあたり、このまちの平成を振り返っていききたい。

